

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町		
所在地	岐阜市太郎丸諏訪174番地 (電話) 058-229-2272		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年4月18日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】 (19年 3月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・○平成 15年 11月 19日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤16, 非常勤2人, 常勤換算14.95人	

(2) 建物概要

建物構造	小町：軽量鉄骨ユニットハウス	式部：木造平屋建て
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	小町45000円・式部51000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(200,000円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (3月30日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	2	要介護2	5			
要介護3	3	要介護4	3			
要介護5	5	要支援2	0			
年齢	平均	81.5歳	最低	59歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大前医院、竹内クリニック、松田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者、管理者の夫妻は高齢者の生活の場としてのグループホームをユニットごとの運営経験を生かし、更に良いホーム作りに昼夜を惜しまず努力している。代表者の地元でのホーム経営であるが、地域住民の深い理解を受け、利用者ものびのび、いきいき生活している姿が伺える。利用者の病状の進行については看護経験の豊富な管理者が24時間体制を支えており、利用者、家族、職員の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「ホーム便りを作ると良い」は作成された。「家族会があると良い」は呼びかけ中である。「計画書に家族のサインが無い」は家族にサインをしてもらうようになった。「キッチン入り口に柵の設置を」では、柵を設置したが活用されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価から改善・努力されているが、家族会の開催や災害時の非難訓練の実施が具体化されていない。また、今回の自己評価は一部の職員で行なわれていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の実施家や地区のケア会議には定期的に出席し、他の事業所・市町村とも交流を深める努力をし、関係づくりもできている。今後は広く地域からの要望にも積極的に取り組もうと準備が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情に対する取り組みも行われているが、家族からの意見はなかなか得られない状況である。話しやすい声掛けを多くしたり、暮らしぶりを細かく報告して、安心して暮らしてもらえるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元出身の利点もあるが、何よりホーム建物がオープンで通りすがりの方とも気軽に会話するなど、地域自治会や近隣とも友好的である。かかりつけ医とも信頼関係も深く、安心して暮らしてもらえるようにしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に掲げ、入居前の暮らしを続けられるよう実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットには額に入れた理念が見やすい位置に掲示され、日々の会話の中にも取り入れられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は地元住民であり、ホーム裏に自宅がある地域自治会員である。周辺住民とは気軽に交流され、窓越しに楽しく声掛けされる場面が見られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価から改善、努力されているが家族会の開催や災害時の避難訓練の実施などが具体化されていない。	○	少人数からでも家族会を実施し、家族間の交流に期待する。また、災害に対する意識を高められたい。外部評価の機会に職員それぞれが自己評価することで事業所への理解、ケアに対する見直しにつながるよう工夫されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去3回の会議実績があり、ホームについての理解は地域に得られている。	○	自治会長からは認知症に対するより一層の理解のために学習会の提案が出されており、ホームも前向きに検討している。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北東部で行われているケア会議に参加し、地域包括支援センターとも連携している。管理者は地域の民生委員でもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、ホーム便りと金銭出納の明細を報告している。さらに、個々の暮らしぶり、体調不良など小まめに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の明記や、苦情ポストの設置も行われている。面会時には家族に声かけをし、話しやすい関係作りに努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はホーム周辺の地元の方が多く、異動は少ない。結婚退職した職員についても結婚式の写真を見せるなどして利用者に離職の理由を説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は看護教員の経験や介護施設での勤務経験があり、看護介護に関する知識・技術を職員に教育している。	○	職員の経験に合わせた外部・内部研修の年間研修計画が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者との交流はない。運営推進会議実施にあたり、小学校区の4つのグループホームに働きかけたが実現には至っていない。	○	グループホーム間の交流は難しいと思われるが、小学校区での地域行事などで連携を図れるよう努力されたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験を受け入れている。過去に1件体験で入居を断ったケースがあるが、それ以外はホームに馴染める工夫や利用者との交流に努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	習字や漢字など利用者から教えられることも多い。利用者間でも見守りや声掛けが行われており、日々の生活を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>過去の生活歴を踏まえ、出来るだけこれまでの生活パターンを崩さないように努力している。文字を書く事で落ち着かれる方に対しては書いたものを廊下に掲示し周囲の利用者から評価されることが喜びとなっている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケースカンファレンスにおいて、スタッフ間で話し合い修正されているが、家族からは意見や要望を引き出しにくく、反映されているとは言い難い。</p>	○	<p>カンファレンスの席へ家族に参加してもらおうといった取り組みを検討中である。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況に合わせた見直しが行われている。病状の進行に伴い、食形態や行動範囲などを修正し、実行している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力医療機関以外の病院への移送も行い、家族の負担軽減にもなっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は協力的に対応している。週1回の往診もあり、気軽に相談にも応じている。通院には看護師が同行し、家族とも連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアには積極的に取り組んでいる。現在ターミナルに近い利用者が2名あり、看護師は常に寄り添う体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての声掛けは土地の言い回しも取り入れ、分かりやすく話し、穏やかである。	○	自治会に回覧するホーム便りには顔が確認できないよう、家族向けの便りとは別にするなど個人情報の配慮に今後も継続した取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今は行っていないが、以前は晩酌する人があった。昼食後も自主的に歯磨きをしたり、トイレに行ったり、決まった場所で横になったりと利用者のさまざまな動きがみられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	賑やかな雰囲気での利用者と職員の食事場面があった。握力の無い利用者にはお椀に移したり、さり気無い介助がされていた。下膳やテーブル拭きなど利用者の出来ることは自然に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は遅い時間に入浴していたが、利用者の昼間に入りたいとの希望をいれ、14時からの入浴となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きな編み物をしたり、習字や大人の塗絵をしたものを廊下に張っている。また、元教員の利用者は常にメモを持ち、毎日の献立を綺麗に書き残していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気に合わせて、散歩はできる限り行われている。歩いて丁度よい距離に喫茶店があり、利用者の楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関には鍵をかけておらず、日中はドアチャイムの優しい音が入り出りを知らせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣家の火災の際、近所の人や協力医療機関及び公休だった職員も駆けつけた。	○	様々な状況を想定した避難訓練を定期的実施し、消防署との連携を図り、災害時に備え食料や水などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃ろう、ペースト、刻み、常食と形態別に提供されている。また、能力に合わせ軽い食器やスプーンなどの使い分けも適切に行われている。利用者の好みを配慮した献立会議が週2回行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルな構造で、かつ明るく、利用者は思い思いのお気に入りの場所で過ごしている。大きな窓から見える景色から季節感も十分感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊用の部屋もあり、各居室は利用者の状態に合わせ、布団だけの部屋や使い慣れた家具や装飾品のある部屋など様々である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。